

殺虫剤 虫よけ 使ってる？

私たちが日ごろ使っている製品は、さまざまな化学物質を利用して作られています。今回は、殺虫剤や虫よけが、どれくらいお子さんのまわりで使われているか。1歳半質問票の回答結果をまとめました。

(2016年2月24日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。回答数3847件)

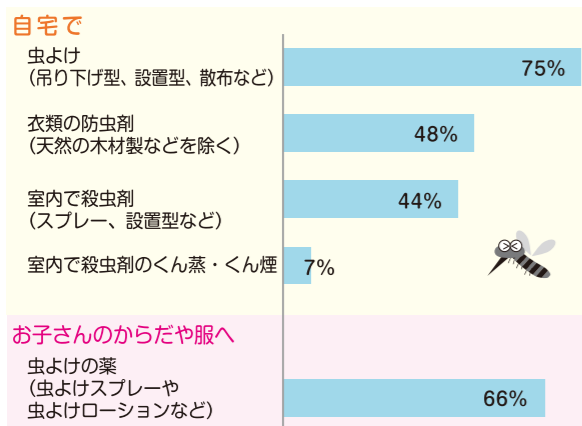


虫よけを使っている家庭はかなり多く、75%のお子さんが自宅で使っていました(グラフ①)。

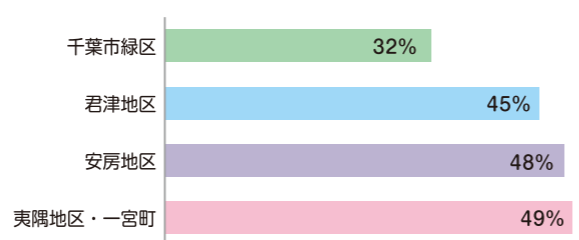
地域により、殺虫剤を使う人の割合に違いがありますが、これは虫の発生しやすさに関係しているかもしれません(グラフ②)。

お子さんの身のまわりでの殺虫剤などの使用状況 (生後6か月～1歳半ごろ)

① … 製品を使用した人の割合



② … 室内で殺虫剤(スプレー、設置型など)を使用した人の割合 <地域ごとの比較>



(ほかの殺虫剤、虫除け、防虫剤の使用については、地域ごとの違いはありませんでした)



日本でも、蚊などの虫が媒介する病気があります。自分もお子さんも、できるだけ虫刺されは避けたいですね。殺虫剤や虫よけにもいろいろな種類がありますが、一般に家庭用として売られている虫よけや殺虫剤、防虫剤には、どんな成分が使われているのでしょうか。

【殺虫剤・虫よけ】

(右ページの表に主な製品の有効成分をまとめてあります)

家庭用の殺虫剤・虫よけに使われているピレスロイド系の薬剤は、除虫菊の成分の仲間です。「虫よけ」というと、「殺虫剤」よりも安全なイメージがありますが、一部の製品を除き、同じようにピレスロイド系殺虫剤が使われています。電気蚊取りや設置型の虫よけなど、つい使いすぎることはありませんか？ 空気中にまかれた殺虫剤は、吸い込まれて体の中に入ります。また、カーテンについたり、ホコリにくっついて床に落ちます。

小さなお子さんは、床の近くで生活し、ホコリを吸い込んだり、手についたものが口に入りやすいので、大人よりも体内に取り込むリスクが高くなります。肌につけるタイプの虫よけは、大部分にディートという成分が使われています。小さなお子さんに使われることも多く、1歳半質問票の回答では、66%のお子さんが体や服に使っていました(グラフ①)。

製品	主な有効成分
蚊取り線香、電気蚊取り	ピレスロイド系殺虫剤
殺虫スプレー	
虫よけ (吊り下げ型、設置型、ワンタッチ型、網戸用スプレーなど)	
防ダニスプレー、ダニ用パウダー	ピレスロイド系殺虫剤、オキサジアゾール系殺虫剤など
ダニ・ノミ用殺虫剤 くん煙剤	
虫よけスプレー、虫よけローション、虫よけジェル、虫よけティッシュなど	ディート
園芸用殺虫剤	ネオニコチノイド系殺虫剤など (農薬)
衣類の防虫剤	ナフタリン、パラジクロロベンゼン、ピレスロイド系

※このほか虫よけにはハーブの精油などを使用した製品もあります。

ディートが入っていない虫よけを使っている家庭もあると思いますが、かなり多くの家庭で虫よけの薬を使っているようです。肌につけた薬は、皮膚を通して体内に入ります。手についた薬が目や口から体内に入ったり、スプレーした薬を吸い込むこともあります。ピレスロイド系もディートも、農薬などの殺虫剤に比べると毒性は低いですが、神経に作用する薬剤です。子どもに使えるような表示があっても、安全とは言い切れません。お子さんは特に薬の影響を受けやすいので、使い過ぎないように注意が必要です。

【衣類の防虫剤】

ニオイがつかないタイプではピレスロイド系が、ニオイがあるタイプでは、ナフタリンやパラジクロロベンゼンなどの薬剤が使われています。目や鼻への刺激を感じたり、気分が悪くなる場合があります。必要以上に使わないように、また、密閉した箱に入れるなどして、できるだけ吸い込まないように工夫しましょう。衣類を食べるカツオブシムシの幼虫は、ウールだけでなく、汚れた衣類が好物です。防虫剤だけでなく、洗濯やクリーニングをしてから服をしまおうとよいそうです。

殺虫剤、虫よけを上手に使うには…

- 習慣的に使わず、必要な時だけ使うようにしましょう。
- 顔の近くで使わないように注意しましょう。虫よけスプレーは、吸い込まないように、手に取ってから塗るのがおすすめです。
- ディートが入った虫よけは、小さいお子さんにはできるだけ使わないようにしたいものです。特に、ディートの濃度が高い虫よけはお子さんに使わないようにしましょう。
- 殺虫剤だけに頼らず、水たまりをなくす(ボウフラの発生を防ぐため)、肌の露出を少なくするなど、他の工夫もしましょう。

殺虫剤、防虫剤に限らず、空気中の化学物質をできるだけ体内に取り込まないために

- 掃除をして、床に落ちたホコリを減らしましょう。
- お米などの貯蔵食品は、空気中の化学物質を吸着しやすいので、できるだけまわりの空気に触れにくい容器に保存しましょう。

農薬として使われる殺虫剤は、ピレスロイド系よりも作用が強く、農地だけでなく街路樹や家庭園芸用としても使われています。お子さんの手に土がついたら、しっかり洗いましょう。

殺虫剤やそのほかの化学物質について、お子さんにもわかりやすいパンフレットがインターネットで公開されています(環境省作成)。 <http://www.env.go.jp/chemi/communication/guide/index.html>

